

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292100013		
法人名	株式会社 ユリの花		
事業所名	グループホーム ユリの花		
所在地	青森県西津軽郡深浦町大字深浦字宇妻沢13番地1		
自己評価作成日	平成25年7月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成25年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者の声に耳を傾け、業務を優先することなく、コミュニケーションの時間を多く設けている。 ・日々の利用者の望みを把握し、季節の食材を使った食事を提供し、我が家のようにリラックスできる。 ・外出行事やホーム内行事を通じて、地域の方々との交流を積極的に取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内は清潔に掃除されており、温・湿度、日差し、音や声の高低等にも配慮され、利用者にとって居心地の良い空間が提供されている。 職員全員が協力し合い、より良いグループホームにしようという意欲が感じられ、ホーム名である「ユリの花」にちなんだ理念の実践に取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、方針や目標を全ての職員が理解しており、利用者や来訪者が見やすく、分かりやすいように掲示している。	地域で馴染みやすい理念にしたいと、職員全員で時間をかけて作成しており、ホーム名である「ユリのはな」にちなんだ独自の理念を掲げている。また、理念をホーム内に掲示し、利用者や来訪者も共有できるようにしている他、管理者及び職員は理念を実践できるように日々の支援に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のゴミ拾いに参加したり、町内の馴染みの場所へ行き、利用者が外食や買い物、美容院等を利用できるように、また、地域とのつながりを図れるように支援している。	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように、町内の美容院を利用したり、地元の商店へ買い物に行く等、日常的に交流を図っている。また、地域の清掃活動等の行事に参加したり、ホームで夏祭りを開催する際は地域住民にも参加を働きかけるように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	婦人会や老人クラブ、ボランティアの受け入れを通し、認知症について、地域の皆様方に理解していただけるよう取り組んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、活動状況や取り組み状況等を報告して助言をいただいております。会議においては全職員で話し合い、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催しており、地域包括支援センターの職員等が出席している。会議では、利用者へのサービス提供、自己及び外部評価への取り組み状況等について報告し、メンバーからの些細な意見も拾い上げ、今後のサービス向上に活かせるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加の他、地域連絡会議に出席し、情報交換をしている。	日頃から役場の担当者と連絡を取れる体制になっており、ホームの実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築いている。また、自己及び外部評価結果や目標達成計画を提出している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを全職員に配布し、ホーム内で研修も行っている。	マニュアル等の整備を行い、職員は身体拘束における利用者への悪影響を理解しており、玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、日々の対応の中で、常に利用者の外出傾向を察知するように努めており、万が一の無断外出時に備えて、母体施設や近隣のスーパーに協力を働きかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待について理解しており、マニュアルを配布している。日々の何気ない言葉や行動に細心の注意を払い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護を利用されている方はいないものの、権利擁護に関する制度を理解できるように、内部研修に取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項説明書等でホームの方針や支援を理解していただけるように説明している。利用者や家族の不安を軽減し、希望を取り入れたサービス提供ができるように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談・苦情先を明記しており、玄関には意見箱を設置している。また、面会時に家族が意見や要望を提案した際は、全職員で話し合い、日々のケアに反映できるように取り組んでいる。	意見箱を設置している他、苦情相談窓口を明示して、意見や要望を出しやすい環境づくりに努めている。家族の面会時や電話の際に、意見等がないか確認している他、些細な意見にも迅速に対応する体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の申し送りや定例会等で、職員の提案を聞き、意見交換を行っている。	毎月の職員会議等で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。代表者は職員から出された意見を真摯に受け止め、必要に応じて今後のサービスに反映させるように努めている。避難場所に砂利が敷かれ、転倒の危険性があるため、舗装してほしいという要望があり、検討中である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に基づいて取り組んでいる。職員がやりがいを持てるように、外部研修への参加や資格取得に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修の他、資格取得のために勤務体系に配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流会を開催し、利用者や職員の親睦を深める活動を行っている。地域連絡会議に参加し、情報交換や勉強会を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行ったり、ホームを見学していただき、安心した生活を送れるように、本人や家族の要望を聞き取り、個々のペースで生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談の際、本人や家族の意向を聞いてアセスメントを行い、家族との話し合いに重点を置き、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に必要なことを見極め、できる限りの対応に努めている。また、必要に応じて他事業所(他施設・居宅・包括等)に相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者や家族の希望や要望を取り入れ、本人の意思を確認し、お互いが協力し合い、支え合える関係を大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や面会時等に話し合いの機会を設け、家族の思いを聞いたり、時には職員からも相談をしながら、一緒に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や洋品店へ行き、馴染みの人や場所と友好的関係を継続できるように支援している。	入所前に通っていた美容院の利用や商店へ買い物に行く等、大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。職員は、利用者は勿論、家族や在宅時に利用していたサービス等の関係者からも情報収集し、把握に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が上手くいくように、職員が調整役となっている他、個々の生活歴や趣味等を考慮し、利用者が孤立しないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先の関係者に利用者の状況やケア等の情報を伝え、話し合いや相談等の機会を設け、これまでの関係を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前・入居後にも利用者の思いや希望の把握に努め、意向に沿うように努めており、本人や家族と一緒に考え、相談しながら支援に取り組んでいる。	入所時にアセスメントを行い、職員全体で利用者一人ひとりの思いや暮らし方について、本人の意向の把握をするように努めている。また、受診時や反応の良い時に、利用者の思いや意向を汲み取るように努めている他、日々の関わりの中で利用者の言葉を拾い上げ、連絡ノート等に記録して共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・生活環境等を利用者・家族・関係者から聞き取り、プライバシーに配慮の上、その内容を共有し、支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの個性や生活歴、体調の変化に気をつけ、個々に応じたペースで日常生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を聞いてアセスメントを行い、全職員で担当者会議やモニタリングを行っている。	アセスメントに基づき、利用者が自分らしく生活するための課題と支援について、本人は勿論、家族や必要な関係機関等と話し合いをしており、現状に即した介護計画を作成するように努めている。また、利用者の状況や家族の希望の変化に応じて、実施期間に関わらず、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の言葉や行動等、日々の様子や身体状況、支援内容の実践等について個人ファイルに記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院・買い物・入所等、利用者や家族の希望や要望、状況に応じた対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署・消防分団等の協力を得て、避難訓練を行っている。婦人会や保育園児等を受け入れ、利用者が楽しんでいただけるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族、医療機関と相談しながら、受診や往診をしていただけるように連携を図っている。また、専門医の紹介もしている。	利用者一人ひとりの受療状況を把握しおり、本人や家族等の要望を聞き、適切な医療を受けられるように支援している。通院には職員が同行している他、医師から指示がある時や必要時には家族や関係者にも来ていただき、情報の共有化を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は居ないが、個々の健康状態の把握に努め、主治医または看護師に相談しながら、全職員で利用者の健康管理に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を含め、医療機関と情報交換を行っており、入退院がスムーズにできるような体制づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアには対応していないが、重度化した場合、本人・家族・医療機関と話し合い、ホームでできる事を説明している。	「看取りの指針」はなく、終末期には対応していないものの、重度化した場合や終末期のあり方について、入所の段階から利用者や家族等と話し合っており、ホームでできることを説明し、方針を共有しながら、意向に沿うように対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。状況に応じて、応急手当についての内部研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成している。また、消防団や地域住民の協力が得られるように、運営推進会議で協力依頼を行っている。	日中・夜間を想定した避難誘導策や対応手順等を定めたマニュアルを作成しており、役割分担に従って訓練を実施している。また、災害発生時等に地域の協力が得られるように働きかけしており、運営推進会議でも避難訓練実施について周知し、消防署や防災協力員の参加も得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの意向に配慮した呼び方や声掛けを行い、否定や拒否をしない対応に努めている。	職員は、研修や会議等を通じて、認知症の周辺症状やその原因等の理解を深め、利用者優先の対応に努めている。職員は「自分が入居したら」と考えながら、利用者への対応を行っており、年長者に対する適切な接し方や羞恥心やプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との日々の会話を通し、希望や好みを把握しており、できる限り、本人に選択していただけるような対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、利用者一人ひとりのペースに合わせ、その日の健康状態や精神状態に応じて支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が希望する美容院へ行ったり、化粧品を購入するために外出する等、個々に合った希望のおしゃれや身だしなみができるようにアドバイスしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を把握しており、苦手な物には代替食を提供している。また、季節の食材を使用した食事の提供や、利用者と一緒に調理や片付けを行っている。	利用者の嗜好を把握しており、食事が楽しみなものになるように、利用者と職員が一緒に食事の準備や片付け等を行っている。また、利用者にはゆっくりと食事を摂っていただいており、会話を楽しみながら食事の時間を過ごしていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士から助言や指導をいただき、栄養バランスに配慮した献立にしている。また、利用者の食べる量や水分量を把握しており、チェック表に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、利用者一人ひとりの能力に応じた支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	羞恥心に配慮しながら尿意・便意を確認し、排泄記録にて排泄パターンを把握している。また、排泄の失敗の際は、利用者のプライドを傷つけないように対応している。	利用者の排泄状況を記録しており、一人ひとりの排泄のパターンや習慣を活かしながら、排泄の失敗やおむつの使用を減らすように、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、失禁時の対応についても、利用者の羞恥心に配慮した対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操や歩行運動を取り入れている。食事や水分量の工夫もしており、場合によっては主治医に相談している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	決まった入浴日はあるものの、希望に応じて入浴ができるように対応している。	週2回の入浴日を設けており、利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、個々に応じた支援に努めている。また、利用者の習慣や希望に配慮しつつ、無理なく入浴できるように、職員は見守りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースに合わせた休息や、一人ひとりの生活習慣を把握し、日中の活動により快く就寝できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋等を全職員に周知しており、服薬の変更があった際は申し送りや記録で伝えている。また、症状が変化した場合は、医療機関と連携を図り、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等から利用者の楽しみ事や趣味・特技等を把握しており、一人ひとりの力を活かした役割ができるような場面づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望やその日の体調に合わせ、積極的に外出の機会を設け、気分転換を図っていただくように支援している。	利用者の気分転換につながるように、日頃から外出する機会を多く設けており、利用者の希望を把握しながら、ドライブ等に出掛けられるように支援している。また、お盆等の時期によっては、家族と一緒に外出していただくこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持している方がおり、満足感が保たれるように支援している。家族の了解を得た上で、ホームにて金銭管理を行っている方については、買い物時に本人が支払えるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話を掛けることができ、掛かってきた電話は本人へ取り次いでいる。遠方にいる家族には、ホームでの様子を写した写真を添え、利用者の有する力に応じて、手紙のやり取りを行えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさや日差し、照明等に配慮している。季節の花や野菜を植えたり、窓から見える田んぼで季節感を感じられるようになっている。	玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等の共有空間では、利用者にとって不快や混乱をまねくような音や光、色、広さがないように配慮されている。また、生活感や季節感を取り入れて、利用者が居心地良く過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや居室でテレビを見たり、仲の良い利用者同士が居室に集まって話をされたり、思い思いに過ごしていただいている。また、歌が好きな方は居室で歌の練習をされたり、これまでの生活習慣を継続していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に使い慣れた愛用品を持ち込んでいただいている。ホームでの写真や飾り物は、本人と一緒にレイアウトしている。	利用者の居室は、自宅で生活していた頃の使い慣れた物や好みの物を持ってきていただいている。また、利用者が居心地よく過ごせるように、職員が利用者と一緒に工夫しながら、居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・ホール・浴室等に手すりを設置しており、個々の身体状況に合わせた車椅子・老人車等の使用が可能である。また、少しでも自立した生活が送れるように支援している。		